バイナンスで史上最大の資産流出、流出額は約1兆円

01 史上最大のハッキング事件の規模と攻撃の仕組み

推定影響額	大半の資産が動いた時間	資産が移動した対象
約63億ドル（約1兆円）	**約20分**	**10種類の暗号資産**

- 10月30日（日本時間）、暗号資産交換所バイナンスで過去最大規模の不正流出
- ブロックチェーン自体ではなく、送金を承認する「署名システム」が悪用された可能性
- 社員のPCなど複数箇所の侵害も指摘。ただし、最終的な侵入経路や原因は調査中

02 顧客資産の補填と証明

- ○ 約95%を補填（2日）、残る約5%は調達に時間を要する
- ○ 約30億ドルの盗難されたUSDCやUSDTは発行体が凍結
- ○ 4割がUSDT 2割強がBTC 1.5割がUSDC 2.5割がその他
- ○ 顧客の預かり資産を裏付ける証明データを公開（2日）

03 利用者の出金と今後の焦点

- ○ 11月1日から利用者の出金要請を段階的に再開
- ○ 再開後の純流出47.2億ドル、預かり資産全体の約3%
- ○ 焦点は残る資産の補填、盗難資産の回収、利用者の信頼と財務負担

3年間に発生した大規模ハッキングの攻撃主体

01 侵入口と不正送金が成立した仕組みを比較

事件	侵入口（共通点と違い）	不正送金が成立した仕組み
DMM Bitcoin 2024年	委託先Ginco社員に偽の採用連絡 悪意あるプログラムで端末を侵害	・侵害した業務環境を使い社員になりすましてアクセス ・DMM社員の正規の送金依頼を改ざんし、4,502BTC（約482億円）が流出
Bybit 2025年	委託先Safeの開発者端末を侵害 送金承認に使うWeb画面を改ざん	・署名担当者には正しい送金情報が表示されたが、裏では取引内容を攻撃者側のものに差し替え ・正規の承認を悪用して資産を流出させた
Binance 2026年	社員PCなど複数箇所で侵害の可能性 具体的な侵入経路は未確定	・送金承認インフラが悪用された可能性 ・20分で大半の資産が不正送金され複数チェーンへ移動 ・詳細は調査中

02 攻撃主体の特定：北朝鮮系「TraderTraitor（トレイダー トレイター）」

2024年12月｜DMM	2025年2月｜Bybit	2026年10月｜Binance
警察庁・FBI・DC3が犯行を特定	FBIが北朝鮮による犯行を公表	FBIがTraderTraitorと特定